

【胸膜腫瘍】

1) 悪性胸膜中皮腫

肺、心膜、横隔膜などは胸膜という薄い膜に覆われており、その膜を構成している中皮から発生する悪性腫瘍が悪性胸膜中皮腫です。

胸膜中皮腫は主に石綿（アスベスト）吸引によっておこることが知られています。

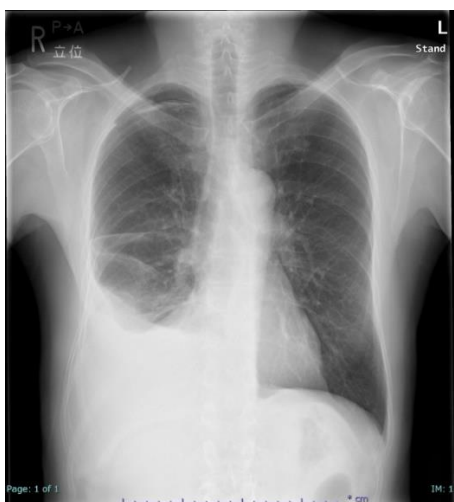
そのため、アスベストを扱う産業、特に建設業の患者さんが多いです。アスベスト吸引開始から 20～40 年後に発病することが多いため、今後も患者さんは増えることが予想されます。悪性胸膜中皮腫は非常に治療成績が悪い悪性腫瘍です。

一般的な発病の契機は息苦しさで、胸部レントゲンにて片側の大量胸水で発見されます。まれに気胸で発症することもあります。

診断は胸水の検査で確定することもあります。最終的に胸腔鏡下胸膜生検が必要になる場合があります。胸水が貯まりにくくなるようにドレーンを入れ、そこから癒着剤を撒く胸膜癒着術を行うことがあります。

腫瘍に対する根本治療については、現在、悪性胸膜中皮腫に対する有効な免疫療法や抗がん剤の組み合わせが出てきています。手術治療としては、従来は胸膜肺全摘（胸膜と肺をつけて、さらに横隔膜や心膜を切除する術式）が主流でしたが、現在は胸膜切除＋肺剥皮術を行い、一側肺全摘は避ける術式が多いです。

さらに放射線治療を加え、抗がん剤、放射線、手術の 3 者を組み合わせて治療を行います。



悪性胸膜中皮腫 水気胸で発症



右悪性胸膜中皮腫 PET/CT 右胸膜全体に集積あり

2) 孤立性線維性腫瘍 (SFT : Solitary Fibrous Tumor)

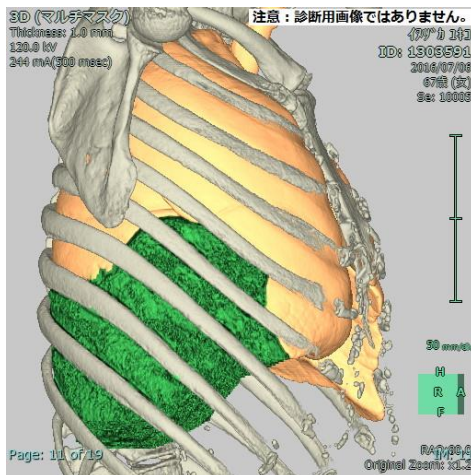
胸膜由来の腫瘍で、概ね良性腫瘍です。症状はほとんどなく、検診のレントゲンやCTで発見されることが多いです。治療は手術で完全切除することです。通常は胸腔鏡やロボット支援手術で行いますが、巨大な腫瘍の場合は、開胸手術になることもあります。



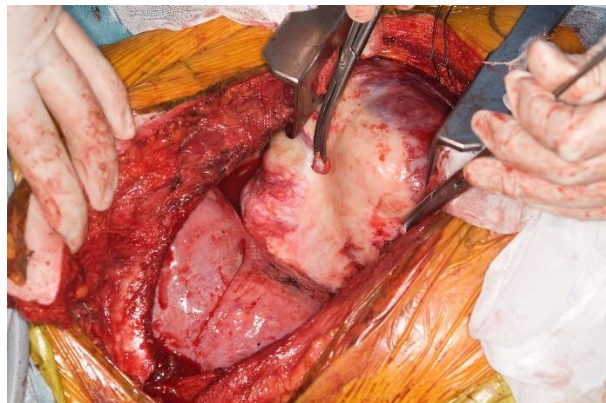
SFT CT



SFT CT



巨大 SFT 3D/CT



巨大 SFT 開胸手術所見